

1 （答申事項）第8期中海に係る湖沼水質保全計画の策定について

（小野寺委員）

資料31ページ（3）③「気候変動が中海の水質に及ぼす影響を把握する」とは、具体的にはどういうイメージで、調査研究ではどういったことを計画されているのか。

資料31ページ（4）「総合的な流域管理の取組」で、例えば⑥の鳥取県での「豊かな森づくり協働税」などは、それ自体が素晴らしい。それが森林保全に具体的にどういった形で生かされていくのか教えていただきたい。

資料32ページ（4）④「上下流域一体となって整備」は、協働するという素晴らしい取組だと思うが、現段階で事例はあるのか。

（西山参事）

「気候変動関係の調査研究」については、具体的には来年度から行っていく予定で、まずは現在の気候や降雨が昔に比べてどれくらい変わっているかデータを整理し、また将来的な気温上昇等の予測から、中海の水質にどう影響していくのかについて調査研究していけたらと考えている。その中で、気候変動が中海の水質に影響を及ぼすときに、どういった適応策があるか検討できればと考えているところ。

「豊かな森づくり協働税」については、後ほど別途ご報告する。

「上下流域の相互一体となった適正な森林整備」については、森林整備の事業の中に植林や下刈などいろいろな事業を盛り込んでおり、県や地域のボランティア等とそれらの取組を行っていかうということで記載している。

（小野寺委員）

特に後半のものに関しては、おそらく鳥取県はかなり先進的かと思うので、もう少し強調し、さらに言うと事例も提示していただくと、県民にも素晴らしいと判断していただけるのでは。

気候変動の件は、気温の上昇等も関係があると思うが、恐らく雨の降り方が変わってきて強い雨が降る。それが上流の、本来は起こるようなところでないところから、普段流れなかったものを流して、その成分が出てくるといったことが起こりうる。そのようなことを適応策も含めて検討いただけたら。

（西山参事）

調査研究の中で、雨の降り方や雨量が増えたことで別のところからの流入負荷が増えることなども分析していきたいと考えている。

（赤井委員）

環境基準点が12ヶ所あり全国的にも飛び抜けて多いということだが、流域や海水からの影響や本庄工区もあるなどの経緯があり、どんどん増えたのではないかと。中海の水質を象徴する部分として（基準点を）一括りには多分できないので、水質面で代表するところに絞れば良いが、米子港あたりが今足を引っ張っている状態。オープンウォータースイムなど人の利用が比較的多いところや米子城など景観的など重要な場所かと思っており、人の利用としての水質目標等を重点的にしていけば良いのではないかと。

資料31ページ（1）「豊かな汽水域生態系の保全」で、浅場造成等の実施や生態系に注目した水質の指標・目標を検討されるのは非常に良いこと。併せて中海の沿岸には塩性湿地や汽水独特の陸域の植物もあるので、できれば水域から陸域にかけて湿地を造成するなど、連続性のある取組ができたらさらに良いのではないかと。

（西山参事）

人の利用に関する目標について、米子湾ではこれまで透明度を設定して最近では2メートルまで改善している。大気・水質部会からも、今後の課題として中海の水質をどう評価していくか、将来的にどこまで行っていくのかを課題としていただいております。今後、調査研究の中でどういった評価が良いか研究していきたい。

生物に係る陸域での取組について、鳥取県側では水鳥公園に湿地があり、環境学習などの取組が行われている。当計画は水質計画なので、どうしても水の中のことが中心になるが、(陸域での)取組についても考えたい。

(緒方会長)

資料 18 ページ「長期ビジョンを実現するための道筋及び施策の方針」で特に気になったのが、「①流入汚濁負荷の一層の削減」の4段落のうち、1段落目、2段落目、4段落目は(文末が)「推進します」「普及啓発に努めます」「図ります」等で終わっているが、3段落目の農地については、肥料使用量を「減らす」とともに、次の市街地の清掃活動を「実施します」として、努力目標等の方針を提案していくものではなく、断言している。計画中の言葉尻は非常に大切であるが、ここだけ他とは違う書きぶりになっているので、努力目標や前向きになるような文章のまとめ方にさせていただくのが望ましいと思うので検討いただきたい。

資料 20 ページの3「水質の保全に関する方針」は計画期間内に達成すべき水質目標値ということで、今回の第8期計画を策定するにあたって非常に重要。第8期の水質目標値が黒枠で囲まれているが、数値そのものはモニタリングデータを元に水質予測シミュレーションモデルに基づいて計算した予測値であることが表の※1に記載されており、中海の個性等を考えていった場合に、どのような方向性で中海を評価していくのか非常に重要な言葉だと認識した。その上で表の※2では、第8期の計画は「第7期計画の水質目標値を向上若しくは維持させる値を設定」と表の下に小さく書かれているが、これそのものが中海を評価するに当たって重要な言葉ではないかと思う。表の下に隠れたような形にするのではなく、文章の中に書き込むぐらいのレベルであってもいいのかと思うが、大気・水質部会で意見の交換はあったか。

(齊藤部会長)

2点目に関して、基本的には水質予測シミュレーションに基づいて定めたという県の方向を支持するのが我々(大気・水質)部会での姿勢。ただし、ご意見のとおり、この「向上若しくは維持させる」という文言は、例えば(資料 20 ページ) 3 (1)の冒頭などに、そういう方向で定めたというふうにも書いても良いかと思う。

(西山参事)

頂いた2点のご意見について、できるだけ対応するよう鳥根県とも早急に調整し、修正案について会長にご相談させていただく。

(緒方会長)

2点目は取扱いが難しいと思うが、1点目の文言のところは、「求める」「努める」「推進する」という言葉に対して、「実施する」というのは別の意味があるので、各分野にこれで了解を得られるのかも含めて、慎重に言葉の使い方も検討いただければ。

文言の修正は事務局と会長一任とさせていただいてよいか。(委員了承)

2 (部会専決事項)鳥取県公害防止条例施行規則の改正について【大気・水質部会】

(質疑無し)

3 (その他)令和6年度鳥取県環境審議会企画政策部会(第1回)の概要について

(質疑無し)

4 (その他)倉吉保健所局のPM2.5測定値の公開再開について

(質疑無し)